伝統文化交流事業 in ゆとろぎ　熊本・岩手災害復興支援公演

山鹿灯籠・中野七頭舞

「山鹿灯籠」

「中野七頭舞」

出演

熊本県立鹿本農業高校郷土芸能伝承部・岩手県立岩泉高校郷土芸能同好会

羽村の祭ばやし保存連合会（小作本町囃子保存会）

「羽村の祭ばやし」

芸術文化振興基金助成事業

平成 30 年

1月6日(土)

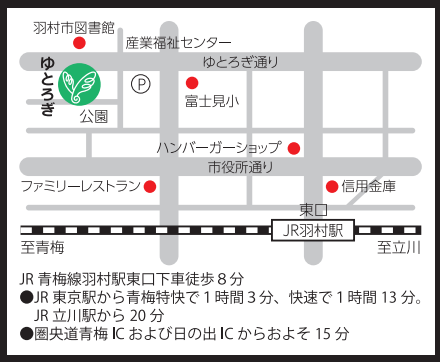
開場 12:30　開演 13:00

羽村市生涯学習センターゆとろぎ大ホール

《チケット》大人 **1,500** 円　高校生以下 **500** 円（全席指定）

10 月 17 日（火）より下記窓口にて販売

ゆとろぎ窓口　（9:00～17:00・月曜休館）**042-570-0707**
羽村市スポーツセンター（9:00～17:00・月曜休館）**042-555-0033**
マルフジ　青梅・羽村・福生市内６店舗のサービスカウンター
西多摩新聞社チケットサービス　（土日定休）**0120-61-3737**
インターネット販売（「チケ探」http://zenkoubun.ticketan.net）



JR 青梅線羽村駅東口下車徒歩８分
●JR 東京駅から青梅特快で１時間３分、快速で１時間 13 分。
JR 立川駅から 20 分
●圏央道青梅 IC および日の出 IC からおよそ 15 分

※未就学児は入場できません。※一時保育あり（有料、申込みは 12/27（水）までにゆとろぎ窓口へ）

主催：羽村市・羽村市教育委員会　問合せ：羽村市生涯学習センターゆとろぎ　東京都羽村市緑ヶ丘 1−11−5　TEL 042−570−0707

山鹿灯籠

山鹿灯籠は「第 12 代景行天皇筑紫路巡幸の折、菊池川一帯に濃霧が立ち込め、進路を阻まれ思案されていた折、山鹿の里人が松明を掲げて、無事天皇の御一行をお迎えした」ことが由来と言われています。

その後、これを記念して、松明を行在所跡（現在の大宮神社）に献ずる火祭りの行事が行われていましたが、今より 600 年前の応永年間、紙細工を金灯籠に模したものが造られ、景行帝を祀る大宮神社に奉納されるならわしとなったのが、今に見る山鹿灯籠であると伝えられています。

金灯籠は熟練の技を駆使した灯籠師が、和紙と糊のみで作る精巧な芸術品です。そのいずれもが、非常に繊細なもので、まさに紙工芸の極致とまでいわれ、山鹿市が誇る国の伝統的工芸品です。

中野七頭舞

中野七頭舞は神楽舞いの一部で、「シットギジシ」を基本とした舞いであり、発端は天保時代にさかのぼるといわれています。当時、神楽太夫と呼ばれた工藤喜太郎は、３６名の弟子がいて種々の神楽を舞うことができました。神楽太夫は毎年巡業をし、北は久慈から南は山田、大槌と舞い歩き、好評を得たと言われています。この喜太郎が神楽舞いの一部を取り入れてこれを基本とし、中野に七頭舞を創始したといわれています。

演舞する基本は、２人１組の７組で１４人です。即ち、「先打ち」「谷地払い」「薙刀」「太刀」「杵」「小鳥」「ササラスリ」の七種類で、これが七頭舞の語源とも言われています。また、踊りの種類も「道具取り」「横跳ね」「チラシ」「戦い」「ツットウツ」「みあし（鳥居掛かり）」「道具納め」の七つに分かれており、ここからも七頭舞の意味がうかがわれます。当初は神楽で踊られていたのですが、時代とともにうつりかわり、集落の祭典に奉納されるようになりました。五穀豊穣、家内安全、大漁を祈願して踊る元祖的存在の七頭舞は、勇壮活発な舞いです。

羽村の祭ばやし　小作本町囃子保存会

小作本町には明治２０年銘の大鼓、鉦、そして面、衣装が神社総代人の蔵にしまわれており、明治の中頃まで囃子が伝えられていました。その後何らかの事情で伝承が途絶えましたが、昭和４７年、伝統芸能復活のため地域の理解、協力を経て小作本町囃子保存会を結成。今日に至り、後継者育成を含め伝統芸能の保存、継承をしています。

この公演の実施にあたり、羽村の祭ばやし保存会連合会を代表して歓迎演奏をお送りします。

「羽村の祭ばやし」公演

日時：1 月 13 日（土）開場 15：00　開演 15：30
会場：生涯学習センターゆとろぎ　大ホール
出演：羽村の祭ばやし保存連合会
入場無料（要入場券）12 月 2 日（土）より、
ゆとろぎ窓口にて配布
問合せ：ゆとろぎ（570-0707）